

〔科目名〕 異文化の理解	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 教養科目
〔担当者〕 石本 雄大	〔オフィス・アワー〕 時間: 初回授業時に提示 場所: 同上	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 現代は多様な領域でグローバル化が進み、ここ青森でも実感することが多い。そのような現代に、異文化を理解することは他者との交流、協働、課題解決の基礎となる。加えて、他者との関係の更なる深化のためには、自文化(自己)の理解が不可欠である。この考えに基づき、本授業では様々なテーマを取り上げ、自文化(自己)および異文化(他者)について理解を深めることを目指す。 グローバル化の進展する現代では、各地で起こる食料問題、宗教対立、環境問題といった課題は世界規模で繋がり、各地で影響しあう。解決のためには、課題の全体像を世界規模で把握し、地域の文化社会的背景を理解することが重要となる。そこで本授業では、自文化(自己)および異文化(他者)の理解を深めるため、講義担当者の国内外でのフィールドワークや実務経験を交え、世界各地の事例を紹介し、その全体像や背景を学び、その解決策について論じる。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 ・なぜ、学ぶ必要があるか・・・自己および他者をより深く理解するため。 ・学んだことが何に結びつくか・・・世界各地で生じる諸課題の全体像や背景を学び、身の回りで起こる問題を客観視する訓練となる。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 本授業では次の3点を主な到達目標とする。 ・異文化(他者)についての知識及び理解を深める。 ・自文化(自己)についての知識及び理解を深める。 ・文献検索、情報収集、小論文執筆、口頭発表の技術を高める。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 問題点、改善要望とも特になしとのこと。 引き続き、授業内容の改善に務める。		
〔教科書〕 適宜資料を配布。		
〔指定図書〕 なし。		
〔参考書〕 講義の際にリストを提供。		
〔前提科目〕 なし。		
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ・授業(第1回～第15回のうち)の3分の2以上、つまり最低10回以上出席すること。 ・課題①調査計画(第4回前日まで提出、10点満点)、課題②文字起こし(第8回前日まで提出、10点満点)、課題③小論文(第12回前日まで提出、30点満点)、課題④口頭発表(第12回前日まで提出、5点満点。第12、13、14回に受講生の1/3ずつが口頭発表を実施、5点満点)、課題⑤他学生からの学び(第15回前日まで提出、10点満点) ・授業レポート2点満点/回 × 15回(合計30点満点) ※各課題・授業レポートの提出方法、採点基準は第1回の講義の際に説明予定		
〔評価の基準及びスケール〕 ・A:80%以上、B:70-79%、C:60-69%、D:50-59%、F:49%以下		

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 真剣に授業を担当します。そのため、以下に該当した際には退室とします。 ・授業開始時間後10分以降の入室。 ・授業中の私語。 ・携帯電話の着信音が鳴った場合。 ・その他、授業を妨げる行為。	
〔実務経歴〕 国際協力機構(JICA) 専門家の国際協力業務として日本とボツワナの研究・教育機関との国際共同研究プロジェクト運営に参画。	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 授業概要 内 容: 授業全体の構成、評価の方法(課題、授業レポート、提出方法、採点基準)、課題の内容、授業の注意点を説明する。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第2回	テーマ(何を学ぶか): <u>文化①食、課題①調査計画</u> 内 容: 世界と日本の食文化の多様性を例示し、歴史・風土との結びつきを概説する。加えて、課題①立案を説明する。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第3回	テーマ(何を学ぶか): <u>文化②食料問題、理解の手法①インタビュー調査、②ライフヒストリー調査</u> 内 容: 先進国一途上国の関係、南北問題について説明し、飢餓および飽食の問題について解説。社会組織、階層、世代を理解するライフヒストリー調査の研究事例研究を紹介する。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第4回	テーマ(何を学ぶか): <u>文化③環境と生業、課題②インタビュー結果の文字起こし</u> 内 容: 世界各地の生業および食料生産を比較・事例紹介し、多様な自然・社会環境との関係性を解説する。また、インタビュー結果をまとめる作業の1つである文字起こしを説明する。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第5回	テーマ(何を学ぶか): <u>文化④衣住、理解の手法③参与観察</u> 内 容: 周囲の自然・社会環境と服飾や住居の関わりを紹介し、構造や機能を解説する。加えて、行事・作業に参加し理解する手法③について紹介する。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第6回	テーマ(何を学ぶか): <u>文化⑤宗教、理解の手法④非参与観察課題</u> 内 容: 世界宗教の歴史、対立、国内宗教の変遷について解説。第三者として調査対象を観察する手法④について説明する。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第7回	テーマ(何を学ぶか): <u>文化⑥家族とエスニシティ、課題③小論文執筆の要点</u> 内 容: 世界各地の家族の在り方を紹介。加えて、文化を共有する社会集団や、そこで共有される意識を意味するエスニシティについて解説する。課題③執筆における要点(章立て、考察のコツなど)、注意点(図・表・写真の扱い、引用のルールなど)を説明。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第8回	テーマ(何を学ぶか): <u>文化⑦グローバル化と地域文化、課題④口頭発表の説明</u> 内 容: 多国籍企業によるモノ・カネ・情報のグローバル化や、そのローカル化による新たな文化を紹介する。その後、課題④の要点、注意点を説明する。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第9回	テーマ(何を学ぶか): <u>文化⑧貧困問題とセーフティネット、理解の手法⑤アンケート調査、⑥統計分析理解の手法</u> 内 容: 世界の貧困、日本の貧困について概説し、文化社会経済的背景について解説する。公的および非公的社会保障を紹介し、後者と助け合いの文化との関わりを解説する。また、手法⑤、⑥の手順、まとめ方を解説し、それらを用いた研究事例を紹介。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供

第10回	テーマ(何を学ぶか): <u>文化⑨人間社会と環境問題、理解の手法⑦社会経済データ</u> 内 容: 過剰利用(土地劣化、砂漠化、漁業資源劣化、水質・大気汚染、温暖化)、低利用(森林荒廃)など生活の営みと環境問題の関連について解説する。社会経済データ活用の方法と注意点を概説。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第11回	テーマ(何を学ぶか): <u>文化⑩-1 移民および出稼ぎ(世界の事例)、理解の手法⑧メディア情報の活用</u> 内 容: 移民や出稼ぎに関して事例紹介を行う。移民排斥、受容のメカニズムについて文化社会経済的背景を手掛かりに説明する。メディア情報活用の方法と注意点を解説する。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第12回	テーマ(何を学ぶか): <u>文化⑩-2 移民および出稼ぎ(日本の事例)、課題⑤他学生からの学びの説明、課題④口頭発表の実施</u> 内 容: 日本からおこなわれた日系移民、近年増加する技能実習生、国内での移住や出稼ぎについて文化社会経済的背景を解説する。受容、排斥のメカニズムを検討し、相互理解の重要性を議論する。課題⑤の要点、注意点を説明する。その後、履修学生の1/3が課題④を実施。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第13回	テーマ(何を学ぶか): <u>実践①国際協力とSDGs、課題④口頭発表の実施</u> 内 容: 様々な国際協力の取り組み、その近年の動向を、SDGsと関連付け、紹介。事業の実効性、取り組みの持続性の観点から解説する。その後、履修学生の1/3が課題④を実施。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第14回	テーマ(何を学ぶか): <u>実践②地域課題とまちづくり(日本)、課題④口頭発表の実施</u> 内 容: 過疎や高齢化など日本の農山漁村や地方都市におけるの現状と今後の展望を解説する。その後、履修学生の1/3が課題④を実施。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第15回	テーマ(何を学ぶか): 総括「多文化社会に生きる」 内 容: 全講義をまとめ、異文化理解及び他者理解の重要性を総括する。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
試 験	課題および授業レポートによって成績評価するため、一斉試験は実施しない。